



出水高校だより

第二号 令和三年四月二十六日

目標実現に向けて



滝をバックに(1年生)

校長 宮原義文

どの学年の生徒も、私の姿に気付くと元気にあいさつをしてくれました。なかには、「校長先生、食べませんか」と、持ってきたお菓子を分けてくれる生徒もいました。皆、明るく礼儀正しく接してくれました。その立ち居振る舞いは、かつて自分が中学生だった時に

四月二十三日(金)に一日遠足が実施されました。行き先は、一年生が曾木の滝公園、二年生が北薩広域公園、そして三年生は蘭傘田池公園でした。
私は自家用車で、その三か所すべてを訪れました。好天のもと、すべての場所で生徒たちのさわやかな歓声が響いていました。



敬礼!(2年生)

憧れであった、かつての出水高校生そのものでした。彼らの姿に接し、我々も生徒の目標実現に向け、全力で支援していこうと改めて気を引き締めました。

日頃の成果を発揮して

四月二十六日(月)、本校体育館において、地区・県高校総体選手激励会が実施されました。

ステージ下に体育系部活動の部長二十人が整列、それぞれ大会に臨む決意を述べました。続いて、生徒を代表して体育委員長の龍本士さんが、「自らの課題に懸命に取り組む皆さんはとてもしっかり見えます。誰かが常に皆さんを応援して

生徒たちの前途に、幸多からんことを祈ります。



湖面鮮やか(3年生)

いるように、皆さんも他の誰かの力になっていることを忘れないでください」と激励の言葉を贈りました。

雑感

最近、朝は時間の許す限り歩道に立ち、登校の様子を見守るようにしている。

▼出水高校生が東門近くの横断歩道を渡る際、停車してくれた車両に一礼をする姿は実にすがすがしい。それは、同時に毎朝印象に残るのは、登校している小学生や中学生たちだ。▼こちらが「おはよう」と声をかけると、大きなランドセルを背負った低学年とおぼしき小学生が、前にきちんと両手をそろえてあいさつを返してくれる。その姿がなんとも愛おしい。▼教育者の村上育朗氏は著書のなかで「我々の前にいるのは、生徒・子どもではなく、『未来』である。」と述べている。▼未来を担う子どもたちを守り、育むため、これからは保護者の皆様や地域の方々、しっかりと連携していきたいと思ふ。
(宮原)



部長らによる決意表明